

山形県偕行会

山形県偕行会副会長・事務局長
伊勢 克夫 陸自69

山形県偕行会定期総会の開催

山形県偕行会は、9月10日(土)平成28年度定期総会を、将棋駒生産日本一、春の桜まつり「人間将棋」で知られる天童市の天童温泉「天童グラウンドホテル舞鶴荘」において開催した。

県偕行会は、平成25年10月、旧陸軍将校の偕行社会員と陸上自衛隊元幹部自衛官の偕行社会員が合流して、新たに「元幹部自衛官と旧陸軍将校の会」として再発足した。以来、3年が経過した。

総会には、残念ながら旧陸軍の従前の会員は高齢と体調の不安から出席者はおられなかった。それでも個人の生活現状の報告と偕行会に対する期待と激励のメッセージが届いた。一方、元自会員は総員51名であるが半数に近い24名が出席した。

総会は、14時から開始され「開会のあいさつ」の後、「国歌斉唱」次いで、「国の鎮め」の音楽に合わせて、戦没者自衛隊殉職隊員、物故会員の御霊に「黙祷」を奉げた。



山形県偕行会
山形県偕行会副会長・事務局長
伊勢 克夫 陸自69

「会長挨拶」のあと議事に入り、「27年度及び本年度8月までの事業報告」と「決算報告」「平成28年度事業計画」「予算計画」が審議され、承認された。

事業計画では、山形県護国神社主催の戦没者慰霊顕彰行事(春季例大祭、終戦の日英霊感謝祭、秋季慰霊祭)、山形県自衛隊殉職隊員追悼式への参加など慰霊事業への参列が承認された。そのほか第6師団をはじめ所在部隊の記念行事など各種の行事への参加等を通じて自衛隊との交流や部隊に対する激励を実施する計画である。

次に、規約を一部改正した。第5条(会員)の項目に「本会は、山形県に在住する公益財団法人偕行社の会員をもって構成することを基本とし」の文言を盛り込んで偕行社との一体化に配

慮した。また第6条(役員)の項目で「役員以外の普通会員には、山形県偕行会理事の称号を付与する」を付加した。

役員の改選では、これまでの7名のほかに6名を増強した役員人事が承認された。

偕行会が自衛隊協力団体として、部隊と緊密な連携を保持して協力支援してゆくためには、会勢を強化してゆくことが強く求められており、会員目標100人を早期に達成するため、一層の努力が必要であることを確認した。

第2部は、記念講演会として、井上廣司偕行社理事・編集委員長の講話を拜聴した。

偕行社に元幹部自衛官が入会することになった経緯や組織を継承してからのこれまでの経過、理事長の交代及び現在の広範な事業活動状況など分かり易い説明は、会員に感銘を与えた。

また、これまで陸上自衛隊が実施してきたPKO活動について、特に新安保法制が施行され第11次南スーダン派遣施設隊から任務が付与されることになると思われる「駆け付け警護」についても講話され、会員は真剣に拝聴した。講師からは予定時間を超過して新鮮なお話をいただいた。

第3部として開催した懇親会には、来賓として次の方々をお迎えした。

第6師団長・上尾秀樹陸将、第6師団副師団長兼神町駐屯地司令・鳥海誠司令陸将補、自衛隊山形地方協力本部長・水野文雄1等陸佐、第20普通科連隊長・西村修1等陸佐、第6後方支援連隊長・佐藤洋1等陸佐、神町駐屯地業務隊長・永野格1等陸佐、以上の現職幹部自衛官6名。

また、山形県隊友会会長高橋鉄夫氏(偕行会員陸自84)は、総会、講演会には偕行会員として、懇親会には来賓として参加した。

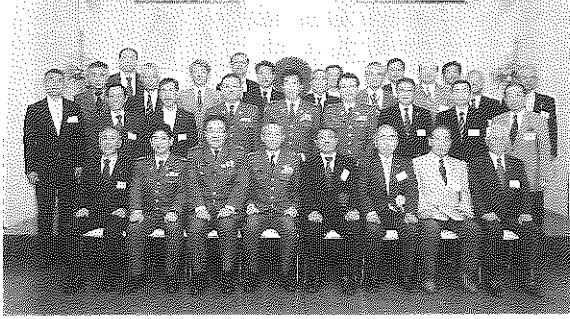
懇親会は、「会長の挨拶」のあと第6師団長と偕行社井上理事からご祝辞をいただいた。

次いでご来賓の方々を紹介させていただいた。地元選出の鈴木憲和衆議院議員からいただいた激励のメッセージを紹介した。

乾杯の前に、出席した会員が自己紹介した。現職の師団長、駐屯地司令、連隊長等を前に久しぶりに自らの現職時代を懐かしく思い出し挨拶した。ちなみに、出席した会員の最年長は、佐藤利己会員(陸自69、85歳)、最年少は、佐藤明会員(陸自84、55歳)であった。やや時間をオーバーしたが、会員には楽しいひとときであった。

乾杯の音頭は、水野山形地方協力本

山形県借行会懇親会



平成28年度 山形県借行会定期総会 懇親会 28.9.10 天童グランドホテル舞鶴荘

部長にお願いして、懇談に入った。
ご来賓の皆様は温かく盛り上げていただいた会員は、部隊側との交流を喜び、同じ道を行ってきた先輩として、また借行社・借行会会員としての役割を意識することができたものと思われる。

お開きの前に、「この国は」と「東北方面隊歌 抱け みちのく」を全員で斉唱して、自衛隊の一層の精強化と活躍を期待し、自らも応援してゆくことを心に誓った。

最後の「万歳三唱」は、西村第20普通科連隊長が音頭をとられた。連隊長は、「幹部自衛官の退職の際は借行会

への入会を是非勧めたい」と結ばれた。本間にうれしい一言であった。予定時間を30分ほどオーバーし、19時散会となった。

「山形県借行会主要役員」

- ・会長 長澤 和一(陸自69)
- ・副会長 兼事務局長 伊勢 克夫(陸自69)
- ・副会長 齋藤 昭(陸自77)
- ・副会長 小田 俊良(陸自75)
- ・副会長 渡辺昭一郎(陸自76)
- ・副会長 吉田 吉彦(陸自82)
- ・事務局次長 阿部儀一郎(陸自79)
- ・事務局次長 高橋 鉄夫(陸自84)
- ・事務局次長 武者 昌男(陸自90)
- ・事務局次長 芳賀 吾朗(陸自92)
- ・事務局次長 阿部 実(陸自107)
- ・監事 高橋 英俊(陸自91)
- ・監事 鈴木 豊(陸自104)

山形の名所(山寺・宝珠山立石寺)

山形の名所旧跡は沢山あるが、借行社の皆さんに一番にお勧めしたいのは、山寺である。

宝珠山立石寺を中心とする山寺は、慈覚大師が貞観2年(860年)12月、清和天皇の勅許を得て創建した古刹と伝えられ、全山を構成する角礫凝灰岩は永年の水蝕と風蝕によって奇石怪石を残し、これが樹間に隠顕し四季おりお

りの景観は絶佳である。

奥の院に到る参道石階は、立ちならぶ句碑や板碑と共に苔むして老杉怪石の間に立ち、幾多の堂塔を配し千古の静寂をたたえている。

元禄2年(1689年)、俳聖松尾

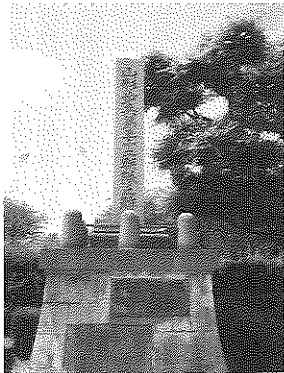
芭蕉も門人河合曾良とともに訪れて一泊し、「閑さや岩にしみ入る蟬の声」の名句を「奥の細道」に残している。

現地を訪れて、芭蕉の句の感慨をぜひ味わっていただきたい。



旧陸軍部隊(歩兵第32聯隊)

旧陸軍に関して山形県借行会が紹介したいのは、歩兵第32聯隊である。



聯隊は、明治29年4月、秋田に聯隊本部が設置され、明治30年、第8師団の隷下に入った。軍旗を拝受したのは、明治31年3月24日である。明治37年、日露戦争に従軍、戦後山形へ転営した。(部隊史)

・日露戦争後山形へ転営、第2師団所属
・大正7年、シベリア出兵に従軍
・大正11年、帰還
・大正14年、第8師団に所属変更
・昭和6年、満洲事変で1個大隊を派遣
・昭和12年10月6日、満洲駐劄
・昭和14年、第24師団に所属変更
・昭和19年月、サイパンに1個大隊派遣

・8月1日、聯隊主力沖繩に派遣命令
・昭和20年、第32軍司令部消滅後は、国吉台の洞窟に
・8月23日、生存将兵約50名が敬礼する中、軍旗奉焼

天童市の間人将棋

今回総会を開催した天童市は、人間将棋が有名である。将棋を戦国時代の戦に見立て、兵士や腰元に扮した人間が巨大な将棋の駒となり、舞鶴山山頂に整備された将棋盤を模した「戦場」で戦うものである。戦の指揮はゲストとして招待されたプロ棋士・女流棋士

が務める。

ルールは通常の将棋と違いがないが、すべての駒を1度は動かすことが暗黙の了解となっている。駒となる人間は一般から公募されている。先手・後手で衣装が色分けされており、歩兵は女性しかつとめることが出来ない。

人間将棋は、豊臣秀吉が伏見城で小姓や腰元を将棋の駒に見立て、「将棋野試合」を行った故事がきっかけとなつている。



天童は江戸時代から将棋駒の生産で知られ、現在でも将棋駒の約95%がこの地域で生産されている。